



# 特集

取材・清水 高山清志  
関根利子



# 企業連携で つながる未来

企業同士が強みを出し合うことで新しい技術・製品・サービスをつくることできる。特に中小企業の場合、先行きの不透明さが増す中で、新しいビジネスパートナーを見つけ出すことにより、大企業にはない小回りの利いた価値を創造することも可能だ。今号ではそうした会社の小さな知恵が生み出した連携を模索した。

## 関西の中小企業4社が共同で 電気自動車を製作

淀川製作所  
大阪・守口市

「何とか中小企業のまちを再生しよう」と平成21年、淀川製作所、京都EV開発、九創設計室、近畿刃物工業の4社が一つのプロジェクトを立ち上げた。その名は「あつぱれEVプロジェクト」。独自の電気自動車（EV）を製作しようというものだ。製品はことし3月末に完成し、その後は、中小企業連携のシンボルとして、関西はもとより全国的に話題を呼び、展示会などで引っ張りだこになっている。

### 環境関連の講演がきっかけ

大阪府守口市は、大手電機メーカーのおひぎ元で、下請け中小企業が集まる企業城下町だ。高度経済成長期は、営業をしなくても仕事がどんどん舞い込み、市内には深夜まで機械加工の音が鳴り響いていた。しかし、時代とともに同市を取り巻く環境は、大きく変遷した。大手電機メーカーの生産拠

点が、タイや中国など、アジアへ次々にシフト。その上、デフレと安価な中国製品の流入で、仕事の量は年々減少した。平成20年秋、そこに、リーマン・ショックが直撃。仕事は一気に減り、廃業やシャッターが降りたまままで音ひとつしない空き工場が増えた。「仲間の中小企業経営者と話しても、暗い話ばかり。この閉塞感を打破するためには、何か起爆剤が必要だ、と考えたんです」と淀川製作所社長の小倉庸敬さんは話す。小倉さんは常々、「下請け加工で生き残っていくには限界があり、自社ブランドの製品をつくらなければならない」と考え、さまざまな勉強会に顔を出していた。そして21年3月、ある環境系の団体が主催する勉強会で、電気自動車についての講演を聴いた。「電気自動車の部品数は、ガソリン車のわずか10分の1。部品が少ない分、加工工程も少なく、組み立てる場所さえ確保できれば、

中小企業でも簡単につくれる」講演者は、こう強調した。実はこの人が後にプロジェクトの一角を担うことになる、京都EV開発顧問の岡田実さんだった。

「ひよっとしたら、うちでもつくれるかもしれない」こう考えた小倉さんは早速岡田さんにアプローチをした。「そうしたら、何とも軽い口調で

### あつぱれEVプロジェクト参加企業の概要

	淀川製作所	京都EV開発	九創設計室	近畿刃物工業
所在地	大阪府守口市	京都府城陽市	兵庫県尼崎市	大阪府守口市
従業員数	16人	4人	1人	30人
業種	・試作板金 ・金属加工製造販売	・電気機械器具製造	・設計サービス	・工業用刃物部品製造販売
主な生產品目	・食品機械 ・医療器械搬送装置	・電気自動車販売 ・電装品設計製作	・建築設計 ・商業デザイン	・紙器・段ボール用刃物部品
本事業の役割分担	・全体構想 ・組み立て	・シャーシ製作 ・電装品製作	・デザイン	・部品製作
担当者	小倉庸敬	岡田実	後藤美香	阿形清信